

带状疱疹予防接種について

〈带状疱疹について〉

水痘带状疱疹ウイルスに初感染（いわゆる「水ぼうそう」）後、生涯にわたって神経に潜伏感染しているウイルスが、加齢、疲労、免疫抑制状態などの宿主の免疫力低下によって再活性化して起こる病気です。

加齢がリスクとされ、50歳代以降で罹患率が高くなると言われています。（ピークは70歳代）

主な症状は、ウイルスが感染した神経が支配する部分の皮膚の疼痛と皮膚病変（水疱形成）です。また、合併症として、皮膚病変が治癒した後に疼痛が残存し数ヶ月から数年持続する「带状疱疹後神経痛」等があります。

〈带状疱疹予防ワクチンについて〉

带状疱疹予防ワクチンは、現在2つの製品（ビケン、シングリックス）があります。どちらか希望するワクチンを接種できます。効果や接種対象などに違いがありますので、必ず医師にご相談ください。

〈ワクチンの副反応〉

発熱や注射部位の発赤などが起こることがありますが、多くは自然に治まります。きわめてまれにショックやアナフィラキシー等の重大な副反応がみられることがあります。

〈接種を受けることができない方（接種不適当者）〉

1. 明らかに発熱している方（37.5度以上） 2. 重篤な急性疾患にかかっている方 3. 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方 4. その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方 5. 生ワクチンにおいては先天性及び後天性免疫不全状態の方、副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の方

〈次の方は、接種を受けるにあたり医師とご相談ください。（接種要注意者）〉

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する方 2. 過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方 3. 過去にけいれんの既往のある方 4. 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全の方がいる方 5. このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

〈予防接種時の注意〉

1. 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。 2. 接種後1週間は副反応の出現に注意しましょう。接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は医師にご相談ください。 3. 接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を清潔に保ち、接種当日は、過度な運動を控えましょう。 4. 医師が必要と認めた場合、他のワクチンと同時に接種することができます。生ワクチンを接種した場合は、他の生ワクチン（注射剤）との接種に27日以上の間隔が必要です。

〈予防接種健康被害救済制度について〉

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働大臣がその予防接種によるものと認定したときは予防接種法に基づく健康被害の給付（医療費・障害年金等）を受けることができます。